

第608回

## I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

「みらいへの約束

～東日本大震災から5年 被災文化財を救え～」

平成28年3月16日（水）

㈱ I B C 岩手放送

## 第608回IBC番組審議会

1. 開催日程 平成28年3月16日(水) 午前11時

2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール

3. 委員の出席 委員総数 10名

出席委員 10名

出席委員の氏名

委員長 田代 高章

副委員長 熊谷 志衣子

委員 村井 康典 小松 務

佐藤 善通 宮 順子

龍澤 尚孝 澤口 たまみ

岩田 圭司 畠山 俊彰

会社側の出席

鎌田 英樹 代表取締役社長

川上 隆 常務取締役営業本部長

神 初見 取締役放送本部長報道局長

中島 勝志 編成局長

堀米 道太郎 テレビ制作部長

角掛 勝志 テレビ制作部ディレクター

事務局

相原 優一 番組審議会事務局長

4. 議題 「みらいへの約束 東日本大震災から5年～被災文化財を救え」

## 5. 議事の概要

### <委員の主な発言>

- 震災復興を取り上げた番組の中では比較的地味な番組かと思ったが、文化財を救うという復興の多様な一面を紹介していて非常に良かった。
- 丁寧に手間をかけて作った番組という印象。人命と財産がこれだけ失われた中で、あえてなぜ文化財を修復しなければならないか、という疑問に番組は答えていた。
- 震災で被災し、命、経済、生活に関わることが最優先で報道される中、文化財における復興の意義が伝わってきた。歴史、文化を伝えていくのは非常に大事だと気付かせてもらった。
- オルガンや吉田家文書などは文化財として修復する意味が非常にわかりやすいが、ゴルフの水彩画を修復する意義があるのか疑問が残る。ほかに適切な水彩画はなかったか。
- とても見ごたえがあった。人間として生きてきた歴史、文化を持つことの意味が伝わる番組。これを5年間遡って追いかけてきたIBCの姿勢を評価したい。
- 一言で言うと心に優しい番組。文化財を救おうという皆さんの思いや、伝えていくことの大切さが全編に感じられた。1人1人の活動と思いが過不足なく描かれ、それぞれの方が強い思いと高い技術をもって地道に取り組む姿に日本のモノづくりの強さを感じた。
- 未来に向けてこれからどう生きていけばいいのか、どう岩手を復興していけばいいのか、というメッセージも含まれている素晴らしい番組だった。